

巻頭特集

地域への還元 株式会社中島商事の取り組み

熱中症から子どもを守る

梅雨が明け、暑い夏がやってきた。子どもたちが思いづくりに駆け回る夏だ。一方で、熱中症による死亡事故と隣り合わせの季節でもある。彦根市内には、地域の宝である子どもたちを不慮の事故から守るべく、独自の取り組みを続ける企業がある。



information
株式会社中島商事
彦根市川瀬馬場町735
0749-25-0334
<http://www.nakajima-hikone.co.jp>

中島商事は当初、7・9・10月にボトルを納入していたが、近年の気候の変化を受けて数年前から6・7・9月に前倒しした。大切なのは、子どもたちが熱中症にかからないことの一歩だ

我が子を思う親心が教育現場を動かした

近年、熱中症に対する考え方が改められている。特に子どもは体温調節機能が未発達なため、熱中症に陥りやすい。「児童に熱中症の症状が出た場合、今から5年ほど前までは、保健室で応急処置をした後にタクシーを手配して病院へ向かわせるといった流れが一般的でしたが、今では迷わず救急車を呼ぶように変わりました」と、彦根市教育委員会の保健担当者は教育現場での危機意識の変化を語る。

た人がいる。彦根市川瀬馬場町にある株式会社中島商事の代表取締役・中島善幸さんは、10年前の夏、長女が脱水症状寸前の状態で小学校から帰宅する姿を目に留めた。聞くと、持参した水筒は昼頃には空になってしまい、大きな水筒を用意するにも小さな体では持てるサイズに限界があるため、結果的に「家に帰るまで我慢」を選ぶのだという。中島さんは、自身の会社で取り扱っているウォーターサーバーとボトルを、水筒が空になったり具合が悪くなった児童生徒に飲んでもらえるよう、無償提供という形で市内の学校に設置できないかと市教育委員会に働きかけた。現市議員・赤井康彦さん

子どもたちの命を守る水が地域に根づくまで

の支援もあり、2011年の夏から実現に至った。

初年度は彦根市内の市立小中学校全24校にウォーターサーバーを設置し、生徒数に応じた本数のボトルを、熱中症の危険性が高まる7、9、10月の3回に分けて提供した。実施後のアンケートでは、ほとんどの実施校が次年度以降も継続を希望。評判を聞きつけた市内幼稚園、保育園から「来年からはぜひうちにも」という声も届き、取り組みは地域の中で広がっていった。

慈善事業は利益の還元 彦根の未来のために

たちが熱中症にならないようにすることなのです」と中島さん。

その思いは教育の現場でも共有されている。河瀬小学校では、必要としている児童の口に入るよう、保健室内に置いたサーバーの残量を教員が管理し、希望者には適量のみ飲むように促す。よほどの事情がない限り児童以外は飲まないように徹底する。「体育の授業中だったり、水筒の中身がなくなったことを言い出せなかつたりと、ギリギリまで我慢してからやってくる児童は少なくありません。そうなる前に来てくれるのが一番ですが、いざというときにすぐに水分補給できるウォーターサーバーが校内にある意味は大きいですね」と、河瀬小学校の養護教諭は中島商事の取り組みの意義を感懐する。

どもを安心して学校に送り出せる環境を整え、熱中症で亡くなるような事態に陥らないようにしたい」と、中島さんは取り組みへの思いを語る。その目線の先には、彦根の未来がある。「彦根を、いまにしたい。同じような取り組みが地域の中で当たり前に行われるまちなになればうれしいですね」

コロナ禍の中、例年と異なる夏休みがやってきた。三密を避ける一方で、気づかないところで熱中症に陥る子どもが増えるかもしれない。この夏は意識して水分補給に努め、子どもたちが安心して過ごせる環境を整えよう。



河瀬小学校では保健室にサーバーを設置。冬場でも知らないうちに脱水症状になるので、一年を通して設置している



体内への吸収率の高い水で、児童生徒や園児から「飲みやすい」「おいしい」という声が上がります。サーバーの横には子どもへの勉強の一環として、水分補給の重要性を記したチラシも置かれています

中島商事は現在、市内の小中学校、幼稚園、保育園の約7〜8割に水を届ける。当初から変わらず、費用は取らない。完全な慈善事業だが、中島さんの考えは違う。「私たちの会社は地元で商売し、地元の皆さまからお金を頂戴して成り立っている。この取り組みは、その利益の一部を還元しているだけに過ぎません」。一部の実施校では非常に時に備え、PTA会費を活用して中島商事からボトルを追加購入することもある。利益は中島商事に入り、翌年度の本事業費に回る。厚意の好循環だ。

「これからの彦根を担っていく子どもたちは地域の宝。親御さんが子



同活動に10年間取り組む中島商事は、彦根市教育委員会から毎年表彰を受け、礼状を贈呈されている。左が西嶋良年教育長で、右が株式会社中島商事代表取締役の中島善幸さん